



DF 技術部会瓦版第 25 号

発行：2014 年 3 月 18 日 世話役：宮下博文 副世話役：赤堀智行

編集・文責：神永 剛

例会報告 2 月 28 日（金） 東京ウィメンズクラブ 14:30~16:45 出席者 36 名*
懇親会：於東方見聞録 17:30~20:00 出席者 31 名*

【目次】

1. 新体制発足
2. 分科会活動報告
 - (1) 日本は何を目指せば生き残れるか（浅野 L）
 - (2) リスクセンス研究会（中田副理事長）
 - (3) 理科実験グループ（戸田 L）
3. 講話「日本における野生鳥獣の問題と対策」（赤堀智行会員 No.899）
4. 新しい仲間のご紹介
赤堀智行さん（No.899）
5. 編集後記（世話役、編集者）
6. 忘年会の写真のご紹介
7. 次回例会のご案内

新体制発足

本年最初の例会は宮下博文新世話役、赤堀智行新副世話役という新体制の下で開かれました。フレッシュコンビへの期待は大きく大勢の方が例会、懇親会に参加されました。宮下さん、赤堀さんよろしくお願いします。



日本は何を目指せば生き残れるか—検討経過報告

浅野応孝 リーダー

浅野リーダーより以下のような経過報告がありました。前半は講師が決まっているが、後半は未定なので講師推薦の依頼があり、また、会議名称が長いため、呼び方が色々錯綜するので、下記のように変更することとなりました。

略称：「DF 産懇」

名称：『DF 経済・産業懇話会—日本産業は何を目指せば生き残れるか—』



1. 検討会の経過

- 2010 年 6 月 22 日 技術部会にて提案で発足
- 2014 年度もこれまで通りに毎月一回を目標に開催する

2. 2014 年度の取り進め

—議論の対象 基本的にはこれまでの方法を引き継ぐ

¶ 産業に影響を与える要因について、その実態を理解する

日本における老朽化・陳腐化の課題、これまでの産業の常識・非常識の逆転等

エネルギー問題、農業問題、各種資源問題、医療介護問題等の各論を掘り下げる

Ⅱ 産業界で起こるトピックスについて、適時に討議する

産業の色々な分野の将来トレンドを見据えて、その課題を討議する

3. 2013 年の開催実績

第 29 回：1 月 24 日（木） 今後の課題について討議

第 30 回：2 月 25 日（月） 山崎雅史氏「電気自動車の将来と課題」

第 31 回：3 月 28 日（木） 詫摩武裕氏 「日本のベンチャービジネスの課題」

第 32 回：4 月 23 日（火） 望月直躬氏 「アベノミクスと新金融政策」

第 33 回：5 月 16 日（木） 宇野研一氏 産業競争力懇談会による提言について
「イノベーションによる新産業・新市場の創出」

第 34 回：6 月 24 日（月） 千原宏典氏 「レアメタル等 日本の現状と課題」

第 35 回：7 月 19 日（金） 浅野応孝 「アベノミクスと日本再興戦略」

第 36 回：10 月 1 日（火） 佐賀治夫氏 「IT の企業における活用と今後」

第 37 回：11 月 5 日（火） 山崎雅史氏 「自動車産業の課題と将来展開」

第 38 回：12 月 10 日（火） 宮本昌幸氏 「鉄道事故は語る（事故調査の体験より）」

4. 2014 年の開催予定

第 39 回（済）：1 月 23 日（木） 望月直躬氏 「2014 年を展望して経済課題を探る」

第 40 回（済）：2 月 19 日（水） 中西 聡氏「日本が取り組むべきエネルギー資源開発」

第 41 回（予定）：3 月 19 日（水） 富田忠道氏 「ドイツ自動車産業の歴史から学ぶ」

第 42 回（予定）：4 月 15 日（火） 岩橋良雄氏 「IT とは？－SI ビジネスの視点から－」

第 43 回（予定）：5 月 X 日 真弓博司氏 「（仮題）欧州問題のトピックス」

第 44 回（予定）：6 月 X 日 野村裕晟氏 「（仮題）海外事業展開の課題」

5. 会議名称について

会議名称が長いので、呼び方が色々錯綜するので、下記のように変更

略称：「DF 産懇」

名称：『DF 経済・産業懇話会－日本産業は何を目指せば生き残れるか－』

リスクセンス研究会 中田邦臣 副理事長

田中副理事長から以下のような報告がありました。参加企業、組織が増えていき、利益相反のあるグループが参加すること出てきているので、秘密保持の徹底が求められているとの説明があり、瓦版に寄せられたスライドも報告に使われたものから変更されています。当研究会の活動について話された中田さんの記事が朝日新聞の 3 月 15 日夕刊に掲載されました。記事のコピーを巻末に掲載しました。お読みになる時は拡大してください。



リスクセンス検定®の目的

組織運営の上でのリスクに対する感度を向上させることに資する。

→ 組織人と組織に関する2種類のリスクセンス検定を行い、数値化されたリスクの認識力、対応力をベースに各組織に於けるリスクマネジメント体制の強化に資することを目的とする

注：当面はオペレーション及びコンプライアンス分野を主とし、財務及び戦略に関する分野は除く

現在の進捗状況

1 現状の組織
①過平成23年2月26日に検定の実施団体である「リスクセンス研究会」のNPO設立総会を開催し、内閣府でNPOの認証（注：中田は事務局の担当）

8月1日付でDF技術部会からの理事交替
保坂 洋氏 ⇒ 藤村 肇一氏 就任

参加メンバー
東工大
LCB研究会
朝大空社
DF技術部会 有志
旭ガラス（個人賛助会員）

展開分野：「ものづくり/IT」分野

①検定

団体受検 9社 12組織 735名受検（1社2月に実施）

内定：IT系 企業 2社、ものづくり分野 1社

総受検者数 2500人の見込み

Web式 個人受検 7月1日から

リスクセンスセミナー 適宜開催

②2014年2月25-28日開催の「2013産業安全対策シンポジウム（国内最大の安全シンポジウムで4日間で日本能率協会や産官学の協会/学会の最新の話題、研究成果を発表）」で26日中田が「組織診断による現場力のセルフチェック」と題し講演

検定実施後のフォロー体制の検討状況

- 合格証の発行(括弧内は合格率)
6社で24名 第1種(上級管理職) 4名(7.7%)
第2種(中間管理職) 8名(8.1%)
第3種(一般実務職) 12名(2.1%)
- コンサルタント
検定結果を踏まえた個別の課題向けのコンサル
体制構築中
- 研修・セミナー開催
3階層別11の診断項目毎の講師陣の体制構築中

展開分野:その他

- Good Risk Sense Award 創設
- ①JR東
「3・11の地震・津波の際のJR東社員による乗客を安全に避難させた行動」
審査委員長 梅里様(DF/富士電機)
- ②綜研化学
「原料タンク内の攪拌熱蓄積に拠る品質異常の早期発見とその対応行動」
審査委員長 鶴田様(名大)

サービス分野

- 金融機関、行政分野向け
⇒ 本年度中に試行し(2月6日実施)、
4月からの普及を目指す。
- 引き合い: 大手保険会社
- 医療分野
医療月刊誌「救急医療」(へるす出版)で
リスクセシスの考え方をベースにした連載
予定

化学工業日報社との連携

- ①日刊紙「化学工業日報」12月24日、記事
- ②月刊誌「化学経済」で連載 決定(2014年4月から5回を予定)
「リスクセシスを磨く〜事故低減に向けて〜」
- ③ Good Risk Sense Award 化工日賞 創設
化学会社の案件を顕彰〜綜研化学社を顕彰〜
- ④単行本 化工日社から 秋に出版 決定
仮題「実践的リスクセシス向上法〜事故を未然に防ぐために〜」
- ⑤共同セミナー

お願いしたいこと

- 当面
- ①個人向け検定問題の作成
条件:検定ビジネスの収入が定常的になるまで無償
- ②検定事業を主体的に実施できる組織との連携
NPOはコンテンツを提供し、検定業務は優れた機関に移管したい
- 長期
ビジネス展開(ものづくり分野)
コンサル事業、セミナー事業
分野の拡大
“サービス”分野医療・介護への展開

「教育部会」理科実験グループ活動報告 戸田邦男 グループリーダー

戸田新リーダーから1・2月の理科実験グループの活動について以下のような報告がありました。本年1月より萩原リーダーの後任として戸田邦男さんが新リーダーとして、また新サブリーダーとして神永剛がなったことが報告されました。

実験参加者が全メンバーの1/3程度と限られているので幅広いメンバーの参加が呼びかけられた。引き続き新メンバーも募集中です。



2. 理科実験実績(2014年1・2月)

月	回数	DF参加者	生徒数
1月	5回	36名	322名
2月	7回	56名	208名

特記 *大雪と、インフルエンザで2回中止あるは延期
*1・2月は11回授業、1回常設館

3. その他

- 7月12日に理科実験フェスティバルイン唐桑を実施することになった
理科実験グループとして、大島、十日町に続き
3回目のフェスティバル

冬のエゾシカ



鹿による被害



森林破壊



当面する課題

- ・シカ柵(侵入防止フェンス)
- ・被害への補償
- ・捕獲放置により4年で2倍
- ・残滓問題
- ・駆除費の支給及び自治体予算のギャップ
- ・食材としての資源活用
- ・その他

狩猟を取り巻く社会情勢

- ★一般的には
趣味や道楽の世界、鳥獣が可哀想であり、好ましくない
- ★組織・運営体制
閉鎖的で縄張り意識が強く、新鮮味が欠如
- ★狩猟行政
自然環境・鳥獣の減少・狩猟事故の増大
力点は鳥獣保護、狩猟規制、狩猟環境の整備には無関心

狩猟環境の変化

- ★狩猟者の減少
*現在 8万人(昭和50年 30万人)
- ★狩猟者の高齢化
*現在 55歳(昭和50年 42歳)
- ★東京都の所持者
*2000年(12,000人)
*2010年(7,500人)
*2013年(6,600人)

鹿肉を美味しく食べるには？

- ・捕獲時は興奮させない
 - ・冷やす
 - ・解体は熟練者(肉に毛、血、体液は付着させない)
 - ・熟成(1週間から10日)
 - ・部位別調理(刺身、ステーキ、焼肉、シチュー等)
- 「食するということは他の命を戴くこと、美味しく感謝しながら食
べることが人間教育の基本の一つ」

新しい仲間のご紹介

赤堀智行さん (No. 899)

1952年、エゾ開拓者の3代目として北海道十勝、日高山麓の貧農の長男として生まれる。

当時でも信じ難いような稲キビ、麦、イモ、カボチャ等の自給主食、加えて勉学の環境にはなく、朝から夜中まで農作業中心の毎日でした。

その後、いろいろと不思議な過程を経て新聞少年をしながら大学を卒業し、社会へ出ました。

英国 ICI 医薬品事業部、現在のアストラゼネカで 20 数年学術部中心に勤務し、その後医療専門のマーケットリサーチ会社 ISIS UK に入社して日本支社及び日本での業務全般の構築を行った。特に日本で初めての Cancer Therapy Monitor を確立した。次に、IT 会社のノス社で医療情報システム事業部の立上げと電子カルテの開発と販売の統括を行ってきた。

商社・製薬・マーケット・IT・人材・モバイル等一貫して医療・医薬の世界を経験して参りました。

50 代半ばに会社勤めから去り、現在まで①ハワイシニアライフ協会でシニア層のロングステイサポート



Kona Marathon (真夏のフルマラソン)

②東京都猟友会で射撃・狩猟に関わる会員サポート ③ランニング倶楽部の設立運営 ④フラ・ダンスチーム
⑤プロボクサー後援会 ⑥スポーツの実践（マラソン、水泳、XC スキー、ゴルフ、射撃）等ボランティア
活動に日々専念し、多くのスポーツをエンジョイしております。

スポーツも人生も後半戦が面白いですね！

編集後記

宮下博文 世話役 神永剛 編集担当

早いもので 今年も もう3月。「3年続きの寒い冬」だそうです。そろそろ桜の季節が待たれます。D
F 技術部会も 月例会・懇親会が 盛大裏に続いており また 神永さんに 編集の労を お願いしている本「瓦
版」も 技術部会月例会とシンクロした発行がペースに乗るなど まずは幸先良い 今年のスタートかと部会員
の皆様の ご支援 ご指導に 心より 感謝申し上げます。4月の月例会は 4/24. を予定させていただいておりま
す。追って ご案内申し上げますが 多くのメンバーの方々の ご参加を 引き続き よろしく お願い申し上げま
す。

2014 年技術部会世話役 宮下博文

我が家の近所の梅は満開です。危うく賞味期限が切れそうになりましたが踏みとどまり瓦版 25 号の刊行に
こぎつけました。2014 年の技術部会も宮下、赤堀両氏の新鮮コンビによる例会でスタートしました。新鮮コ
ンビに対する期待は非常に高く、2 月例会では一時参加者希望者数が部屋の定員を大幅に上回り、世話人、副
世話人が心配されていたと聞きました。2 月の赤堀さんの講話はじめ、4 月の茶野さんの講話など今までに
ない面白い講話が期待され、大いに楽しみです。

(神永)

2013 年忘年会の写真

2013 年 12 月 19 日昭和大学旗の台キャンパス 17 階レストランで行われた技術部会忘年会の集合写真を掲載し
ます。



